

総務市民文教委員会行政視察報告書

先進地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和元年 12月24日

光市議会議長 西村 憲治 様

総務市民文教委員会

委員長	笹井 琢
副委員長	岸本 隆雄
委 員	木村 信秀
委 員	田邊 学
委 員	中本 和行
委 員	仲山 哲男
委 員	西村 憲治（議長）
委 員	林 節子
委 員	森重 明美
随 行	松尾 真

記

- | | | |
|---|---------|--|
| 1 | 視察年月日 | 令和元年 11月26日（火） |
| 2 | 視 察 場 所 | 山口県長門市 市役所新本庁舎について
山口県山陽小野田市 小中一貫教育について |
| 3 | 視察調査結果 | 別紙のとおり |

総務市民文教委員会行政視察調査結果

日 時	令和元年11月26日（火） 11：00～12：10
市町村	長門市（人口 3 万3400人 面積537km ² 議員定数18名）
テーマ	市役所新庁舎について
視察場所	長門市東深川1339の2 長門市役所
応対者	長門市企画総務部庁舎建設室 大田哲也室長 宇野英樹主査 長門市議会事務局 山下賢三次長

1 長門市役所新庁舎建設の概要

《事業の流れ》

- ・平成 26 年 4 月 庁内の検討委員会を設立
- ・平成 26 年 11 月 庁舎整備検討委員会設立
- ・平成 27 年 4 月 庁舎建設基本構想を策定
- ・平成 28 年 3 月 庁舎建設基本計画を策定
- ・平成 28 年 9 月 基本設計が完成
- ・平成 29 年 9 月 実施設計が完成
- ・平成 30 年 1 月 建設工事に着工
- ・令和 元年 8 月 新庁舎が完成
- ・令和 2 年 6 月 （予定）全体竣工



《建築計画》

- ・構 造：木造＋鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、基礎免震構造
- ・規 模：建築面積 1962.35 m² 延べ床面積 7202.26 m² 5階建て 22.996m
- ・事業費：約 46.8 億円（庁舎本体：35.7 億円 外構：1.5 億円
旧庁舎解体：1.2 億円 設計管理：1.6 億円 他）
- ・財 源：起債 35 億円（合併特例債等） 特目基金 6.8 億円 補助金 5 億円

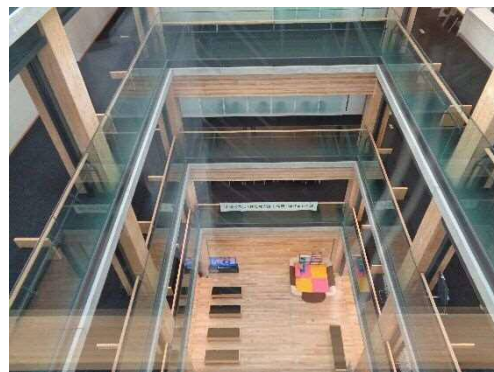
《構造の特徴》

- ・木造＋RC造のハイブリット構造
- ・長門市有林木材の活用（集成材を製造）
- ・執務室レイアウトの柔軟性を確保



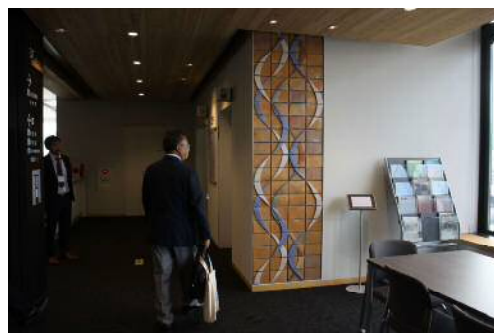
《長門の気候を活用した環境配慮型庁舎》

- ・エコボイド（自然採光・自然通風）の促進、昼光センサー付き照明
- ・地熱利用（免震層をクールピットに活用し、地熱で安定した外気を導入、各フロアに床染み出し方式として効率的に空調）
- ・多機能底（ひさし）と上昇式ロールスクリーン



《長門の技術と文化のコラボレーション》

- ・萩焼陶板タイルの活用
- ・積層ガラスアートの活用
- ・左官擁壁天端に金子みすずの詩を配置
- ・応接室は、萩焼特殊形状タイルと長門産土塗かき落とし仕上げ
- ・エントランス棟には、椎の木フローリングと長門産土塗積層仕上げを活用
- ・議場には、長門市産の木材をふんだんに使用し、開かれたイメージ大切にした対面式の議席と執行部席



《その他》

- ・事業形態：公共事業方式
- ・設計者選定方式：プロポーザル方式
- ・入札結果

	種類	落札業者
1	庁舎建設基本計画・基本・実施設計業務委託	(株)東畑建築・(株)藤田建築設計事務所 J V
2	本庁舎建築工事	(株)熊谷組 中国支店
3	本庁舎電気設備工事	栗原工業(株) 山口営業所
4	本庁舎機械設備工事	(株)朝日工業社 山口営業所

解体中の旧庁舎



2 主な質疑と回答

Q：新庁舎を整備することとした理由及び決定時期は？

→平成 15 年 10 月（合併前）の本庁舎耐震第 1 次診断で、震度 5 以上の地震で倒壊の恐れがあるとの診断を受けた。平成 21 年 3 月の公共施設耐震化促進計画策定により本庁舎の改築が必要と判断され、合併特例債の適用期限延長を受け建て替えを行うこととした。新市建設計画への本庁舎改築事業の追加については平成 26 年 3 月議会で承認された。



Q：旧庁舎を耐震化することや場所を移転することは検討されたか？

→耐震改修は多額の費用や改修後の維持管理で問題が生じるし、行政機能の集約もできない。場所の移転については検討を行ったが、現本庁舎周辺が行政集積ゾーンであり、現庁舎敷地内の駐車場に建設することとした。

Q：基本構想及び基本計画について、議会の意見はどのように反映されたか？

→議会の意見反映については、適宜、全員協議会を開催し、説明・協議をして合意形成を図った。

Q：出先機関を本庁舎に統合することがあったか？

→教育委員会 3 課、経済観光部 1 課、市民福祉部 1 課を、新しい庁舎へ統合した。

Q：防災機能や災害時の対策本部設置場所はどうなっているか？

→大地震発生時に災害対策の拠点としての機能を維持するため、免振構造を採用し、エントランス棟は市民の一時避難も可能とした。

3 日分の非常用発電燃料や 4 日分の上水等を備蓄している。

災害対策本部は市役所 3 階の会議室に設置予定。3 階には市長室や防災危機管理課があり、災害対策本部に隣接する設計である。



非常用発電機



防災危機管理課

3 各委員の所感

笹井 琢

長門市は旧市役所時代から敷地スペースが十分にあった。場所移転も含めた比較検討のうえ、現在地での建て替えが選択された。光市役所においては駐車場の多くが借地であり、敷地問題のハードルが高い。

設計業者をプロポーザルで公募した後に、基本理念を木造へ変更しており、事業管理に疑問が残る。今回の視察にあたり、当方の質問に対し懇切丁寧に答えて頂き、誠にありがとうございます。

岸本 隆雄

- ・庁舎、中央部が吹き抜け構造と、建物の四方が大きなガラス窓で、庁舎内が明るい。
- ・出先機関（教育委員会・経済観光部・市民福祉部など）を本庁舎に統合。
- ・フローリング・柱・梁などに 地元木材を使用して建物全体に温かみが、感じられた。
- ・災害時の本部機能として、3階に防災課（情報伝達装置室）・市長室・大会議室を備えていた。
- ・5階屋上に自家発電設備・燃料タンクを完備。
- ・議会議場の配置が、今までの常識とは違い参考になりました。

木村 信秀

財源は合併特例債を活用して建設されていた。施工は長門市の特徴を生かした有林木材を活用し、大断面集成材（スギ）とヒノキ一般製材による木造＋RC造のハイブリッド構造であった。木の温かみを活かした造りは長門市ならではのものであり、当市に於いても、今後の新庁舎建設に際しては、特徴を活かした建設にすることを考えていかななくてはならないと改めて感じる事が出来た。

田邊 学

令和元年9月に新庁舎において開庁式を開催し、市民の「安心・安全」の拠点と利用しやすく親しみやすさが基本理念であり、素晴らしく立派な新庁舎でした。木プラスRC合成梁の技術による全国初の5階建て耐火木造庁舎は斬新でありました。自然エネルギーの活用もされており、光市において新庁舎建設を考察する場合は、やはり光市の顔である為、長門市の新庁舎はとても参考になるという感想です。

中本 和行

旧庁舎は、建築後50年以上経過し、耐震性がなく危険性が非常に高かったため、施設の老朽化、機能の分散化などの多くの課題を解決するため、立て替えに踏み切りました。

新庁舎は、市民の生命と財産を守るため免震構造となっています。オープンフロ

アーで明るく、市民が利用しやすい、市民に開かれた、親しみが持てる庁舎で、満足度の高い市民サービスが期待出来ます。バリアフリー化もなされ、高齢者にも障害者に対してもやさしい庁舎です。また、建設においては、地域の木材を利用し、環境及び地域社会の利益も考慮しています。

市民を守る安全施設として、分散した機能を統一し、防災機能も整えており、職員の意識の高揚にも繋がる立派な庁舎であると感銘しました。

仲山 哲男

R C・木・一部鉄骨の混構造の好例。通常、地元産の木材を使うとウッディ臭くなりがちだが、丁度いい感じで納めている。幅広く選択肢を比較検討して進められ、丁寧な市民理解や共感を得る手順も参考になる。市長部局階の防災危機管理課に隣接して災害対策本部対応の会議室が準備され、非常用電源等も装備され、防災・災害対応上、本丸の本庁舎の整備が機動的で望ましいと感じた。議場は、傍聴席から見ると、正面に議長、右側に執行部、左側に議員という構成で、配置が変わることで何か変化に期待できる気がした。建物の随所に地元左官職人や陶芸家の技が散りばめられ彩りを添えており、好感が持てる。全体として、工費に対して割安であると感じた。

西村 憲治

- ・玄関ホールは檜造りで地元の材木を使用しており、地元の左官職人による掻き落とし壁は存在感があります。
- ・気持ちの良い木の香りの床材は椎木とのことでした。
- ・自然光を用いて採光し、床（カーペット下）には地熱空調を採用。
- ・重厚な木張りの防音扉、LEDの飾り照明を採用。
- ・お客様をおもてなしできるよう、カウンターはゆったりとしています。
- ・防災指令室（3F）を拝見しましたが、何もない部屋でした。

お客様や働く職員への配慮が隅々にあふれた、素晴らしい庁舎でした。江原新市長は、この庁舎が贅沢すぎると批判して当選されました。

林 節子

長門市役所の前庁舎は、築 50 年以上が経過し耐震性に問題があったため、新庁舎を建設した。新庁舎は5階建てで5層の吹き抜けになっており、何階にいても他の階が見渡せる。庁舎内には災害対策機能があり、災害対策拠点としての機能維持のため、免震構造を採用している。地域の木材を多く使用しており、建物の内外には地元の左官による特殊な土塗り壁を施工、深川窯による陶壁を壁面の一部に使用するなど、長門市の文化が取り入れられている。

森重 明美

長門市庁舎は昭和 38 年建築で耐震性・老朽化・庁舎内部の狭隘化や行政機能の分散化など、庁舎に対する多くの問題が課題であった。光市も同様であったが、長門

市は平成 24 年の合併特例債延長法成立により適用期限が平成 31 年度迄延長されたのを機に、期限までの完成を目指し平成 26 年から事業に着手、平成 31 年に完成の運びとなる。どこを分水嶺とするか、トップダウンのみならず、二元代表制の議会の先見性と将来展望が問われているということについて、他市の取組みを目の当たりにする度に感じている。

日 時	令和元年11月26日（火）14：30～16：00
市町村	山陽小野田市（人口6万人 面積458km ² 議員定数22名）
テーマ	小中一貫教育について
視察場所	山陽小野田市大字郡3491番地2 山陽小野田市立厚陽小・中学校
応対者	山陽小野田市教育委員会学校教育課 下瀬昌巳課長 山陽小野田市立厚陽小・中学校 中川悟校長 山陽小野田市議会事務局 光永直樹主事

1 山陽小野田市立 厚陽小・中学校の概要

平成24年 新校舎完成 施設併設型小中連携校

平成29年 施設併設型小中一貫校

小学校：8学級67名 中学校：5学級42名

校長1名、教頭2名、教諭・養護教諭・事務職員はそれぞれ配置（部屋は共同）

旧厚陽小学校の敷地に設置 500m離れた旧厚陽中学校は解体

校舎2棟のうち1棟を取り壊し木造校舎1棟を建設 体育館やプールは継続利用



2 山陽小野田市の小中一貫教育

①9年間を通した教育目標を設定

②児童生徒の実態・発達段階や地域の状況に応じた教育課程の編成

③小中学校合同の学校運営協議会を設置

（地域のクリーン作戦・PTAなど、生徒、保護者、教師の交流など）

④教員の相互乗り入れ授業 専門的な教科指導

⑤児童生徒の交流活動を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。

（組体操・避難訓練・文化祭など）

⑥施設一体型小中一貫校の情報を市内各校に提供

⑦山口理科大学との連携（学級支援や大学による本物の科学体験など）



木を生かした小学校棟



武道ルーム



図書コーナー



中学校棟（旧小学校校舎）

3 主な質疑と回答

Q：小中一貫校は厚陽と埴生(予定)の2校だけだが、全市的な展開予定はあるか？

→ない。施設を併設とした2校のみが小中一貫校である。埴生小・中学校は令和2年4月に小中一貫校となる予定。市支所、公民館、児童クラブを併設する。

Q：小中一貫教育の導入に関する地域の意見はどうか？

→厚陽地区・埴生地区とも、生徒や保護者からは反対意見はなかった。文部科学省が定める「義務教育校」にしてはどうか、という意見はあった。

Q：小規模学校の運営はどうか？

→複式学級が5年継続したら、地域協議会を設立し協議する。埴生地区に隣接する小学校が複式校となっており、地域協議会も設置されているが、具体的な動きはない。



4 各委員の所感

笹井 琢

○光市 全ての小中学校 →R2.4→ 小中一貫校（全て）

○山陽小野田市 小学校と中学校 →併設→ 小中一貫校（厚陽・埴生のみ）

文部科学省が示す小中一貫校の像は光市と一緒にだが、そこへの道のりや考え方の違いを認識した。また小学校の複式学級が5年継続した場合には、地元協議会を設け検討するというルールは参考になった。

岸本 隆雄

メリットと感じたこと

- ・先輩、後輩の上下関係ができるようになるのでは。
- ・専門性を備えた中学校の先生が、小学生を教えることが出来る。
- ・小学校の先生と中学校の先生との教育指導が、スムーズに進むのでは。
- ・一人ひとりの生徒の教育指導が9年間連携できるので生徒の為になるのでは。

デメリットと感じたこと

- ・小学校どうし、中学校どうしが統合されたわけではないため、少人数での学級が9年間続いてしまい、人間関係が固定的で、協調性等が育まれないのでは。
- ・部活動の選択肢が、狭まるのではないか。

木村 信秀

山陽小野田市の施設一体型小中一貫校の基本方針としては、各校の実態を踏まえ9年間を通した教育目標を設定すること、及び、児童生徒の実態や発達段階、地域の状況に応じて系統性に配慮した教育課程を編成すること、すなわち学校・家庭・地域が協働し合うこと、としていた。小中の教員が相互に乗り入れて授業を行い、きめ細やかな指導をしているように感じた。効果としては様々あるが、中一ギャップの解消及び学力の向上、また、自己存在感や自己肯定感の醸成等に役立っていることが感じられた。当市に於いての今後の提言に活かしていきたい。

田邊 学

学校経営の全体構想を掲げ、「学校教育目標」「チャレンジ目標」「重点取組事項」と、コミュニティスクールの3機能を生かしての9年間を見通した義務教育としている。施設一体型の小中一貫教育校ということは、現状の光市よりは進んでいる状況にある。各自治体が苦労している「小中一貫教育・小中一貫校・義務教育学校」制度においては、試行錯誤しながらの取り組みであろうと思われるが、光市においてはより良い方向性を模索したい。

中本 和行

旧施設の老朽化及び耐震性が低いという結果を受けて、他に先駆けて、進めている小中一体型一貫校を建設していました。新たな校舎は木材使い、木のぬくもりと

潤いを感じる、子供たちの教育に最適な環境です。

人口減少や少子化の進展を予測しながら、教育の効果を高めるため、学校規模の適正化を積極的に図りながら、早い時期から一貫校の建設に着手しており、教育の現状をしっかりと把握しながら取り組む姿勢を感じる事ができました。とても良い視察でした。

仲山 哲男

一貫校の整備においては、コストダウンを考え、中学校校舎部分は旧小学校校舎を改築し利用したものと伺える。新築の小学校部分（各種機能を含む）と廊下でつながり、その中心にロビーのように設けられた図書館が、児童生徒の交流の場として有効に機能している。同市に新たに整備される小中一貫校についても、同様に中心に図書館を据えるかたちで校舎が考えられているとのこと。木質に触れるよう配慮され、人と馴染みが良く、廊下や階段が広くとられている。改修した中学校校舎の普通教室は3教室分を2教室にリフォームし、様々な使い方が行われていて参考になる。学校としての一体感の醸成や、9年間を通してのカリキュラムの研究など、8年間の実績を踏まえ、一体型の一貫校による一貫教育に確信を持って取り組んでいると感じた。

西村 憲治

- ・施設一体型小中一貫校（市立厚陽小・中学校）を見学したが、新築の木造校舎（小学校用）はぬくもりのある、廊下の広い、良い校舎でした。
- ・旧小学校を活用した中学校の校舎は、寒々としており、格差を感じました。
- ・「9年間を通じ目指す子ども像」の有無が、一貫校と連携校の違いと伺いましたが、ピンときませんでした。

林 節子

厚陽小・中学校における大学との連携は、普段触れることのない科学等の専門知識を勉強でき、視野を広げる良い機会であると感じた。高校との連携は、「困りごと」のある生徒・保護者には学校の選択肢が増え、また、勉強しやすい環境により自己肯定感を高めることに繋がる。当市においても、高校との連携であれば取り入れることが可能であるため、検討していきたい。

森重 明美

光市でも、令和2年度から小中一貫教育がスタートする。山陽小野田市が取り組む施設一体型の厚陽小中学校を視察。小学校67名、中学校42名で、小規模校と言える。校長は一人、各小・中のトップに教頭が存在し、一貫校としての連携協働を進める。入口には小・中・教員の靴箱が共同に配置され、朝の出会いから一体感が保たれている。校舎の中心にある木の温もりを感じさせる図書コーナーのオープンスペースは、共有スペースとしての利点を最高に活かしている。この辺りは、分離型には手が届かない環境教育と言える。